

学校経営のポイント

“決意”が伝わる学校運営情報の提供を

若井 彌一

すでに夏休みに入った学校も多いと思う。1学期の児童・生徒の学習状況について、ほとんどの小・中・高等学校等では、「通知票」に記載して保護者に連絡するという方法を採用していることであろう。

1学期通知票は学習途中の経過情報

小・中学校では、5段階で、各教科について学習の取り組み状況がある程度保護者が読んで理解できるような内容であることが多い(指導要録の観点別評価を下敷きになっている)。

高等学校の場合には、中間試験と期末試験の得点を平均した数値(素点)が、そのまま記載され、それがA-B-C-D-Eの5段階のどこに位置づけるのか、が示されている類のものが多いと思われる(管見の限りではあるが)。

1学期末なのだから、1年間の3分の1の通過点の学習状況の情報提供にすぎないのだが、受け止める側の児童・生徒は、途中経過としてよりも、ひとつの結果として厳粛に受け止める。親の多くも、おそらく同様である。

このことを想定したうえで、1学期の通知票は、2学期の学習活動への反省であったり、手がかりであったり、励ましであったりすることを、児童・生徒および保護者に理解してもらえるように指導・啓発文書の内容に工夫をこらすようにしたい。これからでも遅くはない。「善を為すに遅すぎることはない」(It is not too late to do good thing.)という諺があるくらいだから。

児童・生徒のなかには、学習活動が順調に進んでいる者ばかりではない。小・中・高等学校と段階が進むにつれて、学習進度・到達度の格差も大きくなりがちである。

「遅れ」をとってしまっている児童・生徒らが、

次学期でどのように学習活動に取り組んだらよいかを、可能な限り希望のもてるような文章表現で示してやりたい。というより 努めなくてはならない。

2学期の経営・実践の決意と方針の明示

児童・生徒の学習活動の取り組み状況は、児童・生徒の内発的な向上努力に依拠するところが大きいことは否定できない。

しかし、いわゆる「学業不振」の責任をすべて児童・生徒(さらには、その背後にあって養育責任を負う保護者)が負うべきだなどというのは、「教養育てる」ことを専門の業としている教育者の見解として是認されうる余地がない。

反省すべきは、児童・生徒ばかりではない(その保護者も含めて)。校長・教頭・教員としても、1学期の学校経営や教育実践を静かにふり返り、2学期の取り組み課題を明らかにする必要がある。小学校・中学校設置規準等における自己点検・評価・公表努力義務規定の施行については、すでに述べた(本紙No.34参照)。

加えて、学校運営情報の積極的な提供を通じて、より良質な教育活動の展開のための決意と基本方針を保護者に明示していく姿勢を示すことが、学校への信頼感を強めることになるとと思われる。善は急げ(Never hesitate to do good.)という諺もある。

(わかい・やいち=上越教育大学教授)

■お知らせとお願い■

- …本紙は、購読料不要です。配信の中止・FAX番号変更等の場合は、■宛先、■新・旧FAX番号、等を必ずご明記くださるようお願いいたします。
- …バックナンバーの配信は、いたしておりません。バックナンバーは、小社ホームページをご覧ください。

本紙はホームページでも閲覧できます

最新刊発売中！ 新指導要領全面实施と“各学校での評価規準づくり”へのテキスト！教育開発研究所・刊

中学校 『評価規準の作成と活用』国研・評価規準全文収録

既刊 小学校『評価規準の作成と活用』 大好評発売中！ B5判304頁・定価2400円

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料FAX 0120-462-488をご利用ください(24時間受付・即日発送)